

メルマガ 「いいテク・ニュース」 季語に遊ぶ 2025年1月23日 (Vol.187)

誰かに話したくなる地球の大自然、絶景と俳句 第1回

誰かに話したくなる地球の大自然、絶景と俳句 第1回



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Meteora_Agios_Triadas_IMG_7632.jpg

メテオラ山頂の修道院

今回からは、驚きの自然現象、神秘的な風景、雄大な海や山、色鮮やかな大地など毎回3テーマずつ感動を与えてくれる世界の風景とそれに合った俳句をお届けします。

第1回の今回は、

1. ノルウェー北部の1日中太陽が昇らない
「極夜」
2. 北海道十勝川の宝石のように美しい氷の塊
「ジュエリーアイス」
3. ギリシャの標高616mの岩山の上に立つ天空の修道院
「メテオラ」をご紹介します。

関連季語とともに楽しみください。

1. 極夜

— 1 日中太陽が昇らない極地 —

北極や南極に近い場所では、太陽が 1 日中沈まない「白夜」があります。逆に 1 日中太陽が昇らない日もあります。それは「極夜」と呼ばれる現象です。

極夜が起こるのは地球の自転軸に関係があり、自転軸が傾いているため極地圏では太陽の光が届かない場所ができてしまい、白夜の現象もまた極夜と同じく自転軸の傾きによるものです。

極夜は、北極と南極の局地圏ならばどこでも起きる現象ですが、どこでも同じ期間夜が続くわけではありません。

北極圏の場合、北に行けば行くほど極夜の期間が長くなります。最北の北極点では 6 ヶ月も続きますが、南限の北緯 66 度 33 分では冬の間の 1 日だけです。

ノルウェー北部のトロムソは北極圏に位置し、極夜の時期は、およそ 11 月下旬から 1 月中旬まで続き、冬至の日でも薄明かりが数時間あり、暗闇が完全に続くわけではありません。しかし、夜明けは訪れません。

1 月下旬には極夜が明けて太陽が顔を見せる太陽の日があり、主に子供たちによって祝われます。極夜が明けると夜が短くなり、2 月下旬には朝 8 時から夕方 4 時まで日照があります。



<https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Morketidetermiddag.JPG>

極夜のトロムソ市街（正午過ぎ）

俳人、片山由美子氏は「極夜行」と題した冬の北極の旅から生まれた句を残しています。
ここでは、その句をとりあげました。

極夜なる地の純白の雪を踏む

オーロラを待つ堅雪を踏みしめて

フィヨルドの漆黒へ雪吞まれゆく

森の木々凍り硝子の森となる

雪に灯し午後とも日暮ともつかず

2. 十勝川のジュエリーアイス －宝石のように美しい氷の塊－

太平洋に面した北海道豊頃町の大津海岸では、1月中旬～2月下旬頃になると、透き通ったクリスタルのような美しい氷の塊が打ち上げられます。

波に揉まれ、太陽の光を受けて輝く様子が、宝石のように美しいことから、「ジュエリーアイス」と呼ばれています。

ジュエリーアイスの元になるものは十勝川の水です。
気温がときには氷点下 20℃以下にもなる十勝地方の厳しい寒さは流れている川の水さえも凍らせてしまいます。

その氷が海に流れ込み波に揉まれると、角がとれ、磨き上げた透明なクリスタルのようになります。
それが河口近くの大津海岸に打ち上げられるのです。

寒ければ寒いほど、大きな塊ができるかとされています。
水がこのように透明な結晶に凍るためには、気泡や不純物の混入がないことや、ゆっくりと成長する時間が必要と考えられ、十勝川のゆったりとした流れと清らかな水質が関係していると推察されます。
世界的にも珍しい自然現象です。



<https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Jewelry-Ice.jpg>

ジュエリーアイスと呼ぶる北海道中川郡豊頃町の大津海岸に打ち上げられた氷塊。

ここでは、晩冬の季語「氷」と三冬の季語「凍る」を詠んだ句を選びました。

星きらきら氷となれるみをつくし

高桑闌更（たかくわ らんこう）

叩きたる氷の固さ子ら楽し

中村汀女

山河けふはればれとある氷かな

鷺谷七菜子

厚氷びしりと軋みたちあがる

加藤楸邨

流れたき形に水の凍りけり

高田正子

3. メテオラ —標高 616 m の岩山の上に立つ天空の修道院—



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Meteora_Agios_Triadas_IMG_7632.jpg

メテオラ山頂の修道院

ギリシャ北西部のセサリア（テッサリア）には、高さ 20 ～ 600 mほどの奇岩の群れが聳えていて、そのひとつの岩山の頂上に建物が立っています。

14 世紀に標高 616 mの山頂に築かれたメテオラ修道院です。
メテオラとはギリシャ語で「中空に浮かぶ」を意味する「メテオロス」が語源。

メテオラは 6000 万年前に湖底に堆積した砂岩と礫岩からできています。
湖に流れ込んでいた川の河口に土砂が堆積してできた三角洲があり、その後湖が消滅し地殻変動が起こって一帯が隆起。
柔らかい地層が風雨によって削られ、硬い岩石だけが残って現在の形となったとされています。

この辺には、大昔から人が住んでいて、9 世紀頃には、迫害を受けたキリスト教徒が隠れ住むようになりまし
た。
そして 14 世紀頃からこのあたりに修道院を建て、多いときには 20 以上の修道院がありましたが、現在では少なくなっています。
それでもキリスト教の修道士たちが今も祈りの日々を送っています。

岩山の上に、建設資材を運ぶのは非常に難しく、着工から完成までに 30 年かかった修道院もあるそうです。
当時は、滑車に吊るした網袋で人が出入りしていたとのこと。

ここでは、「修道院」＋春、夏、秋、冬の季語で詠まれた句を選びました。

薔薇の芽やつつましき灯の修道院

桜井博道

季語「薔薇の芽」で初春

泉鳴る修道院は眠るによし

平畑静塔

季語「泉」で三夏

大工入れ修道院の冬支度

依田秋菫

季語「冬支度」で晩秋

虎落笛（もがりぶえ）今宵修道院泊り

津田清子

季語「虎落笛」で三冬

虎落笛＝竹垣や柵に、冬の強い北風が吹き付け、笛がなるような音を出すこと。

私もメテオラの景観から一句詠んでみました。

日脚伸ぶ仰く崖よりアヴェ・マリア

白井芳雄

季語「日脚伸ぶ」で晩冬

主な参考文献、出典：著者 詩歩

『死ぬまでに行きたい！世界の絶景』（三オブックス）（2013年）
ISBN978-4-86199-611-5

著者 詩歩

『死ぬまでに行きたい！世界の絶景 新日本編』（三オブックス）（2017年）
ISBN978-4-86199-998-7

執筆 山本厚子

『地球一周 365日 世界遺産絶景の旅』（いろは出版）（2021年）
ISBN978-4-86607-184-8

著者 円城寺守

『366日 世界の大自然』（三オブックス）（2022年）
ISBN978-4-86673-319-7

飯田龍太・稲畑汀子・金子兜太・沢木欣一監修

『カラー版 新日本大歳時記 愛蔵版』（講談社）（2008年）
ISBN978-4-06-128972-7

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川耀・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 春』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400504-7 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川耀・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 夏』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400499-6 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川耀・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 秋』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400500-9 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川耀・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 冬』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400502-3 C0392

参考サイト：フリー百科事典ウィキペディア (Wikipedia)

最後までお読みいただきありがとうございました。

(株)技術情報センター メルマガ担当 白井芳雄

本メールマガジンのご感想や本メールマガジンへのご意見・ご要望等 melmaga@tic-co.com まで、
どしどしお寄せ下さい。

株式会社 技術情報センター 〒530-0038 大阪市北区紅梅町 2-18 南森町共同ビル 3F

TEL：06-6358-0141 FAX：06-6358-0134 E-mail：info@tic-co.com